

大人が絵本を

第86回 絵本が



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー Bibliオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事フアウンダー

絵本が抹殺されるって、どういうこと？

子どもたちへ説明のないまま急な臨時休校が始まった日から丸一年となった2021年3月2日は、未知の新型コロナウイルスによって日本が自粛生活に入ってちょうど一年が経過した日です。この日、コロナ感染者3000万人、死者50万人という被害に拡大したアメリカで、政治家から一般市民までを議論に巻き込む大きな報道がありました。

「ドクター・スースの絵本6冊、差別的描写で出版中止に」(CNN)。

ドクター・スース氏といえば、絵本『いじわるグリーンチのクリスマス』が2000年に実写映画「グリーンチ」として公開され、日本でも人気を博しました。2018年のクリスマスにはアニメ映画となって、「グリーンチ」はクリスマスの定番となったのです。原作が発行されたのは1957年、日本語版絵本は渡辺茂男氏の訳で1971年に上陸しました。時代を超え、国境を越えて愛されているスース作品なのです。

『グリーンチ』
ドクター・スース 作・絵
いつじあけみ 訳
(アーティストハウス)



今回の報道は、1991年に87歳で逝去したドクター・スース氏の著作のうち初期の6作が「有害かつ間違った方法で人々を描いている」ことを理由に、出版中止をスース氏の権利を管理するドクター・スース・エンタープライズ社が発表したというものです¹⁾。

その著作は数十言語に翻訳され、世界で6億5000

万部以上を売り上げているとされています。しかしながら、長年に及んで差別的な描写が指摘されていたところ近年、多様性への意識が高まる中、米国ではスース作品の多くでマイノリティーの描き方に問題があるとの批判が高まってきました。この高まる批判に権利会社が絶版でもって対応したのですが、このことで政治、メディア、各種団体がこぞって賛成・反対の議論をぶつけ出したのです。

ドクター・スースの名作は不滅です

2019年、アメリカの学術誌「青少年文学における多様性研究」で発表された、スース氏の絵本50作品を検証した論文によると、作品に登場する有色人種の人物45人のうち43人に「東洋人の定義に合致する特徴」があった、またはアジアに関する偏見や侮辱にあたる特徴があったとし、人種差別的、反ユダヤ主義的な描写が指摘されているのです²⁾。

絶版が発表された翌日には「Banned Seuss (禁止されたスース)」というウェブサイトが開設されました。「差別に対する責任ある決定と評価の声があがる一方で、本を『抹殺する』行為は常軌を逸している」と反論するものです¹⁾。この問題に言及し、左派系勢力がキャンセルカルチャーをあおり、言論や表現を押さえつけているなどと批判しています。

一方で全米日系人博物館は、「アジア系アメリカ人や黒人を含む有色人種について有害な描写がなされている、ドクター・スースの児童書6冊の出版中止決定を支持します」との声明を出しました³⁾。また、賛否だけでなく、出版・図書館・教育関係者の間では子どもたちのための建設的な議論に広がっているといえます。

今回出版中止となった6冊のうちの1冊『マルベ

手にするときは！

抹殺された!!

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

リーどおりのふしぎなできごと』は、スース氏はじめての絵本で、アメリカで1937年に刊行された作品です。時代は第二次世界大戦直前で、以後戦時下となります。出版から84年読み継がれ、歴史に刻まれてきた著作物を出版停止という決定でよいのか、社会背景の変遷による史料的价值についての議論はなされたのか、何よりデビュー作を排除された作者の人権は守られているのか疑問が残ります。

著者と著作物を敬いながら必要とする人との橋渡しをする私たち司書は、またひとつ課題を突き付けられました。差別的描写は決して許されることではありません。しかし、今後、このような配慮が行き過ぎると、また他の物語も失われることにもなりかねないのです。

スース氏の『きみの行く道』(河出書房新社)は、新しい進路に踏み出す中高生へのプレゼントにおすすめしている秀逸作です。これからも変わりありません。



歴史は繰り返されるのでしょうか

「ドクター・スースの絵本6冊、差別的描写で出版中止に」の経緯を聞いて、50歳以上の方々は一冊の絵本が脳裏に浮かんでいることと思います。そう、その絵本とは、『ちびくろサンボ』に他なりません。共通する一時代をきた者には、社会問題となった『ちびくろサンボ』絶版問題が蘇っていることでしょう。

イギリスで1899年に出版された原題『The Story of



『ちびくろ・さんぼ』
ヘレン・バンナーマン 作
フランク・トビアス 絵
光吉夏弥 訳
(岩波書店)

Little Black Sambo』は、児童文学、絵本史上では「一母親が娘のために書いた初めての絵本」として、ポター作『ピーターラビットのおはなし』とともに、20世紀のはじまりの絵本として位置づけされています。

さまざまな出版社が発行していますが、皆様の記憶に残っているのは、赤い表紙の岩波書店版ではないでしょうか。1953年に日本語版が岩波書店より登場してから、四半世紀以上に渡って親子に楽しまれていた絵本が、突如消えたのが1988年のことです。

その理由は人種差別的であるからというものでした。具体的には、①名前(登場人物の「サンボ」「マンボ」「ジャンボ」は差別語である)、②イラスト(黒人にとって不快なステレオタイプである)、③ストーリー(黒人は「愚か」で「未開」、または「ずるがしこい」というマイナスイメージを与える)以上、3点の指摘です⁴⁾。

しかし、絵本『ちびくろサンボ』が絶版に追いやられた直接的な原因は、別のところにありました。



過熱した事件

絶版となった当時、日本で発売されていた「サンボ&ハンナ」人形と、百貨店の黒人マネキン人形がワシントン・ポスト極東共同総局長の目にとまり、同紙で「黒人の古いステレオタイプ日本で息を吹き返す。市場関係者は差別の意図なし、と強調」と批判されたことに端を発します。事態を悪化に招いたのは、記事が掲載された1988年7月22日翌日、当時の自民党政調会長がアフリカ系アメリカ人に対する差別発言を行ったことで、国際問題に発展するのです⁵⁾。

そして、鋒先は絵本『ちびくろサンボ』に向けられ、絶版へと追いやられたのです。

メディア・リテラシー研究者の加藤夏希氏は、



「絶版を急いだ要因は、出版社自体のイメージを守るための手段であった」と述べ、結果的に、この絶版が差別語問題を過熱させる原因になったと分析しています⁶⁾。

1990年、事件は起こりました。長野市と同市教育委員会が、市内の幼稚園、小中学校、図書館や家庭に向けて『ちびくろサンボ』を廃棄依頼する声明を出したのです。当時、冬季五輪オリンピック招致を目前にしていたため、人種差別をしているとの批判を避けるためと説明されました⁶⁾。これは長野市『ちびくろサンボ』廃棄依頼事件として、その後、図書館関係団体で何度も議論、調査、研修が繰り返された図書館史に残る出来事です。図書館は、基本的人権のひとつである知る自由をもつ国民に資料を提供する機関だからです。

世界中が考えた『ちびくろサンボ』

『ちびくろサンボ』が日本ではじめて紹介されたのは1907年で、アメリカの初版から7年後のことでした。『東西お伽噺』(有楽社)の中の一編として収められたお話は古風な文体で、極めてシンプルに語られていて、幾世代にも語り継がれるのにふさわしいものだったと、エリザベス・ヘイ氏は著書『さよならサンボ』で述べています⁵⁾。

1900年に初版が発行された当時のアメリカでは、既にSamboは黒人の軽蔑語として一般化しており、そこにやってきた『The Story of Little Black Sambo』はそのイメージを打ち崩して、あっという間に人気者になったのです。ところが、作者のバンナーマン氏が作品の著作権を取得し損ねてしまったがために、原作以外に歪められた黒人を描いた海賊版が大量に出回ってしまい、結果「サンボ」に対する批判が、黒人自らはじめた地位向上を目指す運動に発展してしまいました。

日本で定本となった岩波版『ちびくろ・さんぼ』はバンナーマン氏の原作ではなく、1927年にアメリカ

『The Story of Little Black Sambo』
by HELLEN
BANNERMAN
(CHATTO&WINDUS)



で出版されたマクラミン社のフランク・トビアス氏の挿絵でした。これも、論争が論争を呼んだ原因のひとつでもあります。

バンナーマン氏の原書の絵について、日本では「稚拙きわまる絵、絵本の絵などといえるしろものでない」などと低い評価ばかり聞いていた若き日の田島征三氏は、はじめて原作を見たとき、「皮肉なことだが、バンナーマン自身による絵だけがかえって人種差別的な要素がないような気がする、とおどろいてしまった」と述べています。1988年の論争よりもっと以前、「月刊絵本」1974年12月号で特集が組まれ、厳しい批評が展開される中、絵本作家デビュー10周年の田島氏が明かしたコメントです⁷⁾。ここまで聞くと、バンナーマン氏の絵を見てみたくなると思います。

時は四半世紀を超えた1999年、径書房から刊行された『ちびくろさんぼのおはなし』で、原作者の挿絵の復刻版と出会うことができます。

想像力という真実が絵本にはあるのです

アメリカでも1970年代に入って『The Story of Little Black Sambo』は図書館から姿を消していました。それが90年代に入ると状況は一転し、改作版が現れ始めるのです。なかでも注目を集めたのは、1996年9月に出版された『Sam and the TIGERS』(サムとトラ)です。翌年の11月には邦題『おしゃれなサムとバターになったトラ』が、さくまゆみこ氏の訳でブルース・インターアクションズより刊行されました。

作者のジュリアス・レスター氏も画家のジェリー・ピンクニー氏も、アメリカで『ちびくろサンボ』が批判されたことをよく知っている50代の黒人で、黒人のヒーロー『ジョン・ヘンリー』の作品でコールド

コット賞を受賞している有名な絵本作家コンビなのです。レスター氏はあとの冒頭で、「主人公は黒人でも、舞台はアフリカではありません。トラが登場しても、舞台はインドではありません。舞台は、実在の場所ではなく架空のどこかなのでした。バナマンが人種差別的な意図をもって『リトル・ブラック・サンボ』を描いたとするのは、公平な見方ではないでしょう」と前置きをした上で本論に迫っています⁸⁾。

「この物語には、いろいろ欠点はあるにせよ、確かに真実が存在しているのです。それは想像力という真実だと私は思いました。」と記し、作者2人にとって改作のいちばんの難題であった「この本が背負っている歴史」について語っています。

この本が出版されたのは、社会的な自然淘汰説が流行していた時代でした。自然と同じように社会も「適者生存」という原則に支配されているとするのが、この自然淘汰説です。おまけに、白人がいちばんの「適者」で、アフリカ人の子孫である黒人は最も「不適」だということは、歴史が証明しているのだと言われていました。意図的かどうかは別として、『リトル・ブラック・サンボ』は、アフリカ人の顔つきを誇張した絵と、17世紀初頭から黒人に対する蔑称として使われてきたサンボという名前によって、白人の方が優秀だという考えを強化することになりました。しかしこの物語には固定観念を超える何かがあり、100年近くの間子どもたちはこの本を楽しんできたのです。ピンクニーと私は、子どものときに『小さな黒いサンボ』を読み、サンボは黒人のヒーローだと思っていました⁸⁾。

レスター氏とピンクニー氏は数か月にわたる調査で、バンナーマン氏に黒人をおとしめる悪意などなかったことを確かめた上で、子どもたちに『ちびくろサンボ』を与える決意をしたのです。



おかえり、『ちびくろサンボ』

1988年暮れから89年はじめにかけて『ちびくろサ

ンボ』は日本で一斉に絶版になりましたが、それに異議を唱えて1989年8月には「子どもの文庫の会」が『ブラック・サンボくん』を早々に復刊させたのです。文章は原作に忠実な訳でイラストをインド風書き改めたのですが、この出版によって「黒人差別をなくす会」が文庫に抗議文を送り、論争は再燃します。1997年には北大路書房から『チビクロさんぽ』が刊行されます。原作が差別図書であることを前提に、少年を犬に置き換え、「サンボ」を「散歩」とひっかけて差別意識と無縁と強調しましたが、「黒人差別をなくす会」との論争は過熱し、物別れに終わっています。

定本であった岩波書店版は17年の時を経て2005年、瑞雲舎が復刊し、岩波版をそのままに楽しむことができます。瑞雲舎の社長は、「後世の子どもたちに残す価値のあるものを復活させることに意義を感じる。表現の自由や出版の自由が守られ、本が存在する状態で論議されてこそ、絵本に描かれた人間の本质が見えてくると思う⁹⁾」としたメッセージを発信しています。

想像力という真実が絵本にはあるのです。



文献

- 1) Newsweek: ドクター・スースの絵本6冊絶版にポリコレ批判, ニューズウィーク日本 HP <https://www.newsweekjapan.jp> 2021/03/04
- 2) AFP BB News: ドクター・スース作品、人種差別描写の6作絶版へ, AFP BB News HP <https://www.afpbb.com/> 2021/03/03
- 3) 全米日系人博物館: ドクター・スースの児童書6冊の出版中止決定を支持します, janm HP <https://www.janm.org> 2021/03/05
- 4) 灘本昌久: ちびくろサンボよ すこやかによみがえれ, 径書房, 東京, p.19-53, 1999.
- 5) エリザベス・ヘイ 著, ゆあさふみえ 訳: さよならサンボ, 平凡社, 東京, p.14-33, 1993.
- 6) 加藤夏希: 差別語表現とメディアー「ちびくろサンボ」問題を中心に, リテラシーヒストリー(3), pp.41-54, 2010.
- 7) 田島征三: ひとりの少年を傷つければ, 月刊絵本2(11), pp.33-37, 1974.
- 8) ジュリアス・レスター 作, ジェリー・ピンクニー 絵, さくまゆみこ 訳: おしゃれなサムとバターになったトラ, プルース・インター・アクションズ, 東京, 1997.
- 9) 井上富雄: ちびくろ・さんぽがかえって来た!, 瑞雲舎 HP <https://www.zuiunsya.com/sanbokoramamu.html>(2005/6)